

チーム医療による 心臓病の再発・重症化の予防

～心不全センターが推進する超高齢化社会の医療モデル～



心臓病教室



カンファレンス



キャラバン研修会 (H28年10月17日)

新年のご挨拶

病院長 平川 勝洋



皆様、明けましておめでとうございます。すがすがしい新年を迎えられたことと思います。私自身は病院長を拝命し2度目の元旦を迎えました。病院は副病院長の先生方をはじめ構成員の皆様のご多大な御支援、御指導のおかげで滞りなく運営されています。心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、5月には現職としては初めてオバマ米国大統領が広島を訪問、慰霊碑への献花がありました。世界最初の被爆地広島としては大きなできごとでありました。秋には、「我らが広島カープ」が25年ぶりにリーグ優勝を果たし大いに沸きました。カープの初優勝は1975年(昭和50年)で、私は学生でした。しばしば、先輩や同級生(越智現学長も一緒に)と講義を失礼して、旧市民球場へ応援に行ったことを思い出します。その年も日本シリーズ(対阪急ブレーブス戦)では1勝もできず、4敗2分けで日本一のタイトルは取れませんでした。是非今年、リーグ連覇と日本一を目指してほしいと思います。

本題の本院の昨年を振り返りますと、5月には国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の支援により、スマート治療室(手術室)が稼働を開始しました。手術中のMRIの撮像のみならず、患者さんのバイタルサインや電気メスの設定まで手術に関係した全ての情報が一元化されています。国としてはこの事業を国家プロジェクトとして、これらの技術を手術室一式として輸出ベースに持っていく算段のようです。既に主に脳外科の手術が数件施行されています。データの収集と、国内外への実績の発信が期待されます。先端医療の面では、機種ごとのupdate化が望まれていた手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)の更新を行いました。最新の機種(第3世代)とともに中古ですが第2世代の機種も購入し、中国四国地方で初めて2台体制となりました。ロボット手術の研修にも大いに活用していきたいと思います。

広島大学病院は広島地域の医療のリーダー的役割を果たすだけでなく、国内外へ多くの情報発信をすることも大切なミッションとなっています。今年も構成員皆様の御支援と御協力をお願い申し上げます。

皆様にとって実り多い一年となりますことを祈念して、新年の御挨拶といたします。

心不全センター設立5年

心不全センターは2012年1月、患者さんの心臓病の再発や重症化などを予防するために設立されました。医師や看護師、理学療法士、管理栄養士など様々な職種の人が関わっています。

設立から5年、何が変わったのでしょうか。



広島大学病院心不全センター開設5周年を迎えて

広島大学病院心不全センター長 木原 康樹



「心不全センターが開設されて5年ですよ」と云われて、驚きました。時間の速さに驚きました。また、自分の願いを形にしたいとの身勝手な思いから始めた活動に、沢山のスタッフが共感して輪が広がり、それが今でも継続していることに驚きました。想像を超えて、多くの患者さんに喜んでもらっていることにも驚きました。



キャラバン研修会 (H28年3月2日)

5年前の開設時記者会見に詰めかけた報道陣は、「ありハビリをするところですか」と早合点して帰っていきました。リハビリも勿論するわけですが、患者さんには「心不全という死病と戦う術を覚え、生き永らえるための道場です」と説明しています。患者さんに寄添い末長く支えてゆくには、医師だけではなく多職種との協働が必要です。その意味を共有し、惜しみない支援をいただいた広島大学病院の皆さまにはいくら感謝しても尽くせません。

これまで「慢性疾患重症化予防・再発予防指導管理料への診療報酬改定要望書」を諸学会と共同で上程しました。「心不全ケア構築マニュアル」をメディカ出版から出版しました。日本心不全学会の「高齢心不全患者の治療に関するステートメント」策定ではその中心に座りました。非痛疾患の緩和ケアに関しても提言を行っています。何よりも広島大学病院心不全センターの分身「心臓いきいきセンター」を広島県内7基幹病院に開設し、地域ネットワークを作ることができました。間違いなく広島県は心不全診療の先進地区になりました。



キャラバン研修会 (H28年10月17日)

心不全など循環器疾患への多職種介入は、超高齢化社会における医療の在りかたのモデルであると思っています。高齢者に集積する疾患としての心不全、患者の生活環境の投影としての心不全、明日の日本国勢を暗示する心不全。だからこそ、私たちの心不全センターはこれからも活動を続けていかねばと思っています。引き続きご指導をなにとぞよろしくお願いいたします。

チーム医療のあり方を追求

心不全センター 慢性疾患看護専門看護師 中 麻規子



心不全センターでは、入退院を繰り返したり合併症を有するなど管理が困難な症例に対する多職種カンファレンスや、心臓病患者さんやご家族に心臓病の管理に必要な知識を学んでもらう心臓病教室、開心術後の患者さんの治療経過を多職種で評価し支援を行う、心臓血管術後多職種外来などを運営しています。また、院外に向けては、「心臓いきいきキャラバン研修会」と題した地域の医療・介護従事者向けの研修会を、年2回開催しています。

心不全センター設立でチーム医療の大切さが徐々に浸透し、患者さんや家族のニーズをより広く拾い上げ、よ



カンファレンス

り具体的な対応ができるようになりました。また、院内・院外の多職種とコミュニケーションを密にとるようになり、入院中のみならず、退院後も継続して治療やケアの目標、情報を共有し、地域も含めてチーム医療がうまく機能するように変化してきたと実感しています。

心不全センターの目的は、心不全患者さんの再入院・重症化予防、QOLの維持・向上です。再入院予防のみならず、QOLの維持でさえ困難と思われた重症例においても、自宅でその人らしさを保ちながら生活できているケースを経験しています。

今後の課題は、チーム医療の成果を費用も含めた形で可視化していくことだと考えています。患者さんと家族、スタッフがチームとなり、希望する療養生活を叶えるために、今後もチーム医療のあり方を追求していきたいと思えます。

化学反応を起こしていけるチームを

理学療法士 **金井 香菜**



心臓病教室

当院の心大血管リハビリテーション(心リハ)は2011年に始まり、翌2012年には心不全センターとして設立されました。当初は医師、理学療法士で細々と始まった心リハですが、今や多職種の方々からなる大きなチームとなりました。心不全センター設立後の心リハの対象患者数は、2012年1,148人、2015年は1,447人、年々より多くの患者さんとの出会いを頂いています。

現在は、各々のメンバーが専門領域に加えて他職種の知識も広く理解する、プロフェッショナル集団に成長しつつあると自負しております。

まだまだ不十分な部分もありますが、理想とする診療について毎日ディスカッションが行われるような、「心臓の病気を抱える患者さん」への熱い思いをもった仲間が育っています。

全国の傾向と同様広島県でも、心疾患を起因とする死亡者数は増加傾向にあります。心不全再入院の原因の多くは生活習慣によるものです。いかに患者さん自身が主役となって再発予防に取り組み、より楽しい充実した生活を送って頂けるかを考え、正しい知識を持って最大限のサポートを行うことが私たち医療者の役目だと考えています。また、心不全患者数の増大や情報化社会の進展、年金医療介護問題など、これからますます変化する社会背景も念頭に入れつつ、医療に取り組んでいかななくてはなりません。

引き続き理想とする診療と患者さんの幸せをめざして、これからも多職種からなる“化学反応”を起こしていけるチームを追求していきたいと思えます。



心臓病教室

【問い合わせ】 心不全センター 月曜日～金曜日 9時～17時 ☎082-257-5711

患者満足度調査へのご協力ありがとうございました



広島大学病院では、患者さん一人ひとりにとって、体にも心にも優しい医療の実現をめざしています。このため、昨年11月患者さんの生の声を聴きたいと患者満足度調査を行いました。

入院患者さん475名、外来患者さん645名の方から回答をいただきました。本当に多数の方にご協力いただきありがとうございました。今後回答を集計し、結果を踏まえてより一層患者さんに満足していただける病院にしていきたいと思っております。

栄養管理部
情報

食事と運動で 骨粗鬆症を予防しよう!



担当した管理栄養士

骨粗鬆症ってどんな病気??

骨の量が減少することや骨の質が悪くなることで、骨が弱くなり、骨折しやすくなった状態をいいます。徐々に進行する病気です。特に自覚症状はありません。放置すると背中が丸くなるなどの症状が現れ、転倒や打撲などのちょっとしたことで骨折するようになります。高齢者の方は骨折がきっかけとなって寝たきりになるケースもみられます。十分な注意が必要です。

しっかり鍛えて強い骨をつくろう!

運動をすることで骨に負荷をかけることができ、カルシウムが骨に沈着しやすくなります。また、運動は筋力やバランス力も鍛えて転倒や骨折を防ぎます。骨粗鬆症対策には適度な運動習慣を身につけましょう。

おすすめの運動メニュー



骨を育てる栄養素 3つを組み合わせ、予防につなげよう!!

カルシウム

骨の主原料となる栄養素

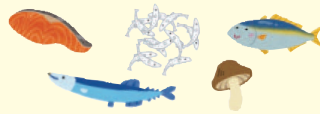
牛乳コップ1杯	200mg
チーズ1切	126mg
ヨーグルト1個	120mg
サクラエビ大さじ1	60mg
木綿豆腐1/2丁	180mg
水菜50g	105mg
小松菜100g	170mg



ビタミンD

カルシウムを吸収するための栄養素

シャケ1切	25.6μg
サンマ1尾	19.0μg
しらす大さじ2	4.6μg
サバ1切	8.8μg
ブリ1切	6.4μg
干しいたけ2個	1.3μg



ビタミンK

カルシウムの排出を防いでくれる栄養素

モロヘイヤ1/2袋	320μg
納豆1パック	300μg
ほうれん草1/4束	189μg
ひじき10g	58μg
パセリ1枝	85μg
キャベツ1枚	39μg



鮭のミルクグラタン

カルシウム、ビタミンD、ビタミンKたっぷり!

材料(2人分)

生シャケ	2切
塩・こしょう	少々
バター	10g
玉ねぎ	1/2個
しめじ	1/2パック
ほうれん草	1/2束
小麦粉	大さじ2
牛乳	400ml
コンソメ	1/2個
ピザ用チーズ	30g

作り方

- ① シャケは一口大に切り、塩・こしょうをし、フライパンで焼いておく。ほうれん草は塩少々入れた熱湯でゆでて、3cm幅に切る。
- ② 鍋にバターを入れ、薄切りにした玉ねぎとしめじを炒める。しんなりしたら小麦粉を入れ、全体にまぶしながら炒める。
- ③ ②に牛乳を加えて弱火でトロリとするまで煮詰め、コンソメで味を調える。
- ④ ③に①のシャケ、ほうれん草を加え、グラタン皿に移し、チーズを散らし、焦げ目がつくまでオーブンで焼く。



病院からのお知らせ

ボランティア活動報告

広島大学病院は、多くのボランティアの皆さんの善意にも支えられています。外来の受付案内や院内図書など6分野で40人の方が活動をしています。今号は、入院棟2階で行われている絵手紙ボランティアの活動を紹介します。



私達は、入院棟2階売店前「みどりの広場」で絵手紙ボランティアを行っています。参加された方々に限られた時間の中、少しでも満足感・達成感を味わっていただき、癒しのひと時になることを目的としています。

モットーは「下手でいい」「下手がよい」。患者さんや付添の人達にホットする時間のお手伝いができればと、始めてから早いもので十余年が過ぎました。

絵手紙活動場所（第1木曜日）に来られ、描きたいけど描けないと尻込みされている方に、ほんのちょっと背中を押してあげるだけで、描き終えられた時の笑顔に、私達の方がパワーを戴いております。

これからも私たちにパワーを下さいね。

多くの方に自由な発想で、世界に一枚しかない、自分が手作りする絵手紙の醍醐味を味わっていただければ幸いです。参加をお待ちしております。



前列中央が筆者

活動日 月1回(第1木曜日) 13時30分～15時30分

活動場所 入院棟2階売店前「みどりの広場」

活動員 7名

絵手紙ボランティア 秋月 逸子

催しのご案内 (2017年1月～3月)

がん治療を支える
患者サロン

場所：臨床管理棟3階 3F2会議室

婦人科がんの基礎と治療について

1月19日(木) 13:30～14:30 講師：産科婦人科医師 平田 英司

頭頸部がんの基礎と治療について

2月16日(木) 14:00～15:00 講師：耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師 上田 勉

抗がん剤他薬剤によるがん治療の最新について

3月16日(木) 13:30～14:30 講師：がん化学療法科医師 妹尾 直

患者・家族が同じ目線で
がん患者
おしゃべり会

1月24日(火) 13:30～14:30

2月28日(火) 13:30～14:30

3月28日(火) 13:30～14:30

場所：診療棟2階 健康情報プラザ

いずれも問い合わせは：
がん相談支援センター ☎082-257-1525